

地質技術伝承講演会 地質技師長が語る地質工学余話

主催 一般社団法人 日本地質学会 関東支部
主催 (社) 全国地質調査業協会連合会 関東地質調査業協会
後援 一般社団法人 日本応用地質学会

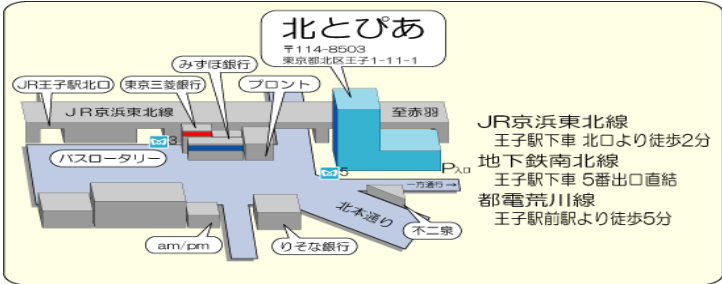
平成22年度開催第2回（6月6日）のお知らせ

平成22年度第2回目の地質技術伝承講演会のご案内をさせていただきます。
今回は地下水および周辺環境の保全と両立させながら地下水利用を考えていくことをテーマに、全地連での研究内容を講演して頂きます。引き続き会員ならびに一般の方々のご出席を頂きますようお願い申し上げます。

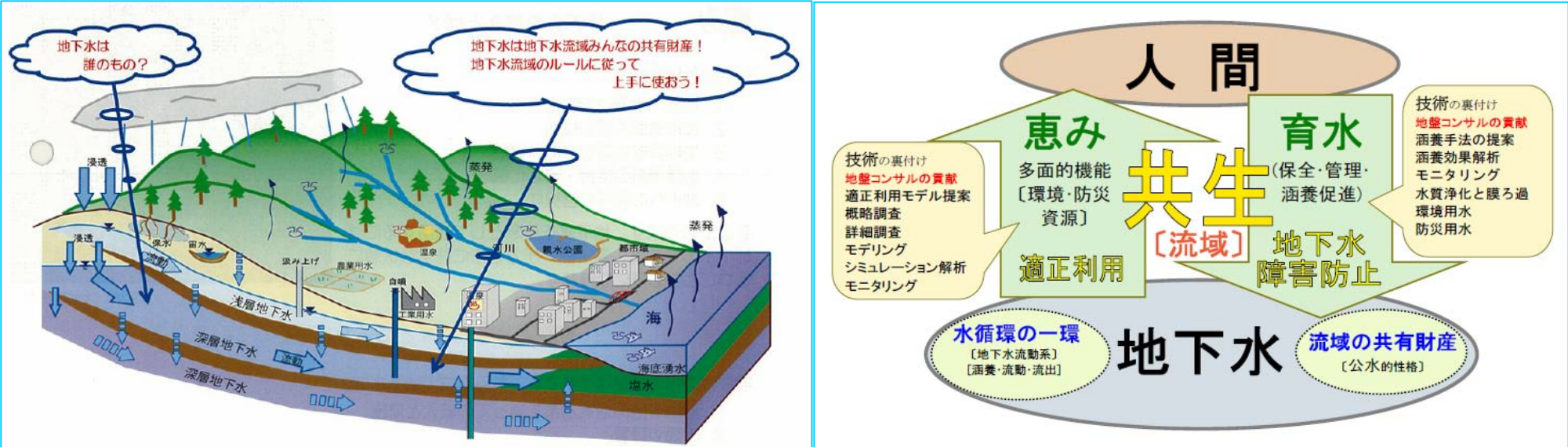
記

第2回
平成22年6月6日（日）14:00～16:30
場所 北とぴあ（東京都北区王子 1-11-1）
飛鳥ホール
参加費 無料（会員、一般共）

講師 中村 裕昭氏 株式会社地域環境研究所



テーマ 共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱



上左右図共、共生型地下水技術活用研究会（全地連）より

講演要旨

水に関する知見や環境が、昨今、国内外において大きく変化している。例えば、①地球温暖化問題を踏まえた各種水環境変化の懸念、②世界の水問題(水飢餓、水質汚染・水質悪化、水害、等)、③国連における越境地下水国際法典化の動き、④ウォーターフットプリント ISO 化の動き、⑤バーチャルウォーターの考え方、⑥健全な水循環確保の考え方、⑦統合的水管理の考え方、⑧我が国における水循環基本法(仮称)制定の動き、⑨ダムに頼らない治水・利水の模索、⑩少子高齢化かつ緊縮財政化で迎えた水インフラ更新期、⑪地下水利用権に関する土地所有者の私権認識から共有財産(有限資源)認識への移行の動き、⑫地中熱利用への期待、等々が挙げられる。

水は人類および地球に生存する全ての生物が生存する上で欠かせない有限な資源であり環境要素であるとの認識に立って、水に関する上記環境変化への対策案として、共生型地下水利用へ向けての『育水』を提唱する。また、健全な水循環確保の身近な検証方法として湧水によるモニタリングを推奨する。

我が国における資源としての地下水利用は、明治以降の近代化並びに戦後復興期の無秩序過剰揚水によって地盤沈下(ゼロメートル地帯創出)や塩水化を招き、大きな社会問題となった。これに対して地下水の揚水規制(用水二法、要綱、条例、等)が導入され、地下水利用が制限されたことから地下水位は大幅に改善(回復)され、沈下挙動は沈静化して、再び身近で良質安価な地下水利用への期待が高まってきた。現在の地下水利用の考え方の実態は、①環境影響(地盤沈下や塩水化等)を起こさない範囲での利用、②地下水用水規制等の法の盲点(隙間)をついた利用、に代表されるが、これらは自然環境や社会環境の変化によって環境影響が再発するリスクを抱えている。

これに対して私達の研究会では、健全な水循環思想を踏まえたサステナビリティな地下水利用方法として以下の考え方を提唱する。

- ① 地下水を使ったら(人工施設内に漏洩水が生じたら)きれいにして地下へ還す(還水)
- ② 地下水を(量・質の両面で)育ててから使う

これが「育水」の概念で、講演では、この「育水」を実現する4つの方法を紹介したい。



講師 中村 裕昭氏
現職：(株)地域環境研究所 代表取締役
日本大学文理学部地球システム科学科 非常勤講師
岡山大学環境理工学部環境デザイン工学科 非常勤講師
全地連 共生型地下水技術活用研究会 幹事
環境省関連の主な委員履歴
・地盤環境研究会：特別委員(1997年度)
・公害等に係る環境アセスメント技術マニュアル作成検討会：委員(地下水・地盤環境担当)(1998年度)
・大気・水・環境負荷分野の環境影響評価技術検討会：水環境研究委員会：研究委員(地下水・地盤環境担当)(1999～2002年度)
・未確立環境影響予測モデル事業「地下水の環境影響予測に関する検討会」：ヒアリング委員(2000～2004年度)
・土壤汚染調査情報収集スキーム検討会：委員(2003～2004年度)
・地下水管理手法検討会：委員(2008年度)
地盤工学会での主な活動
・理事(1999～2000年度)
・関東支部評議員(2006年度～)
・入門シリーズ34『地下水を知る』2008年5月発行の編集・執筆
・青本改正(2013年発行目標)の地下水調査WGリーダー ほか

申し込み方法：ジオスクーリングネットまたは学会へのFAX、下記幹事へのe-mailにて受付けます。ジオスクーリングネット：https://www.geo-schooling.jp/
日本地質学会事務局気付関東支部宛 FAX03-5823-1156、担当幹事 緒方 信一 ogata@ckcnet.co.jp